

議会 だより



小豆島町

No. 33

平成26年 8 月 1 日 発行



新ユニホームで快走 (部活動対抗リレー)

小豆島中学校 第1回 島(アイランド)カップ

- 審議議案
臨時会・定例会について 2～3
- 一般質問
8名の議員が質問 4～7
- 住民の声・まちの力 8

14名の新体制、スタート

4月
臨時会



4月13日に行われた町議会議員選挙において、町民の信任を得た14名の議員が誕生しました。
4月28日には臨時会（初議会）を開催し、正副議長や各常任委員会・議会運営委員会などの各委員が選ばれ、新しい議会の運営体制が固まりました。
（人事案件および議会構成は町広報しゅうどしま6月号に掲載しています）

審議した主な議案

第1回臨時会

4月28日に招集され正副議長や各常任委員会・議会運営委員会・広報編集特別委員会などの各委員、議会選出監査委員、教育委員が選ばれ、新しい議会の運営について協議しました。

また、副町長に松本篤氏、松尾俊男氏が議会の同意を得て選任されました。

条例の一部改正

小豆島町国民健康保険条例の一部を改正する条例

地方税法の一部が改正されるに伴い当町条例の一部を改正するものです。

議長・副議長就任のあいさつ



議長 森口 久士

このたび、不肖私が議員の皆さま方のご推挙により、議長の要職に就任することになりましたことは、身に余る光栄に存する次第であります。同時に、その責務の重大さに身の引き締まる思いであります。今後は、そのご期待に背かないよう常に自分を律し議会の名を汚すこと無く議会発展のため、公正かつ透明で、町民の皆様に分かりやすい開かれた議会運営、町民の声が反映され、信頼される議会の実現に向けて、その職責を全うしていく所存であります。皆様の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。お願い申し上げます。



副議長 大川 新也

このたび、議員皆さま方のご支持により副議長の要職に就くことになりました。大変名誉なことともに、その責任の重大さを痛切に感じているところであります。森口議長のもとで、健全かつ円滑な議会運営に尽力を課し、先人が育んでこられた小豆島町が豊かで住みよい町になるため、その職責を誠心誠意全うしていく所存であります。町民また議員の皆様のご支援ご指導を心からお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

6月定例会

6月定例会は、6月18日から19日までの2日間の会期で開かれました。

町長から平成26年度の一般会計・病院事業会計補正予算2件のほか、新規条例2件、条例改正4件、など合計8議案が提案され、7議案を原案通り、委員会付託された新規条例を一部修正し可決しました。

補正予算

一般会計(第1号)

1億9,261万3千円の補正予算が提案され、補正後の予算総額は96億8,161万3千円となります。

第1号補正は5月末の福田診療所閉鎖に伴う週2回の巡回診療の運営費と、植松都市下水路再整備事業に伴う費用が主なものです。

総務費関係

交流拠点施設整備基本

設計等業務委託料

1,300万円

坂手港を京阪神からの玄関港、また新しい交流の拠点として施設整備するものです。

ビートたけし・ヤノベ

ケンジ作品保存助成金

1,000万円
作品の保存施設の建築費用です。



保存が決まった
アンガー・フロム・ザ・ボトム (坂手)

衛生費関係

病院事業会計負担金等

1,215万円

福田診療所医師の退職による週2回の巡回診療に係る費用です。

農林水産業費

漁港整備工事

1,000万円

既定の予算より補助金の配分が増えたことによるものです。

商工費

二十四の瞳映画村

外壁改修事業補助金

1,500万円

繰入金を財源として、事業に補助するものです。

土木費関係

植松都市下水路

再整備工事

8,552万5千円

国庫補助金、県費補助金の補助内示を受け工事請負費を増額するものです。

教育費

運動能力向上講習会等

講師謝礼

81万6千円

幼児期から運動を習慣づけるため幼稚園・保育所等の講習会にかかるものです。

条例制定

小豆島町小規模ため

池防災対策特別事業分担金徴収条例について

県補助金交付要綱に基づく特別事業に要する経費に充てるため、徴収する分担金に關し必要な事項を定めるものです。ため池の機能を保持する保全型の工事は5%の地元負担(受益者)を徴収するための条例です。

海の道を活かし、アートや文化による地域活性化を目指す条例について

坂手港及びその周辺地域において、海の道を活かして、外との交流を促進し、アートの文化を振興し、全国のモデルとなる先駆的な子育て、高齢者施策の推進による地域活性化を図るため、新たに条例を定めようとするものです。

坂手港及びその周辺

地域とあるがどこまでの地域か。

具体的な計画、中身はあるのか。

坂手のエリア内です。全国のモデルとなると

いう意味で島内、町内の高齢者、子育て施策のモデルにする計画です。

(反対討論) 坂手地域限定という条例では反対。

(賛成討論) 委員会で指摘により、各港をカバーするため、10条を付したので賛成。

委員会付託で追加された条文

(その他)

第10条 町は、坂手港以外の町内各港における振興を検討するものとする。



地域活性化のモデル地区に

条例の一部改正

小豆島町子ども医療費助成に関する条例の一部を改正する条例

現在、通院は小学校就学前、入院は中学校

卒業までとしています。が、平成26年8月から、新たに小学校1年生から中学校卒業までの児童生徒に係る通院医療費を助成対象とするための改正です。

小豆島町重度心身障害者等医療費支給に関する条例の一部を改正する条例

平成26年8月から、新たに市町村民税の課税世帯の一部自己負担分も助成対象とするための改正です。

議会推薦の農業委員に 須佐美定弘氏



農業委員会委員の森口久士氏が、平成26年5月31日をもって辞任したことに伴い、学識経験者として須佐美定弘氏(蒲野)を議会推薦しました。



浜口 勇 議員

「日本創成会議」発表内容への対応について

町「子育て未来ビジョンをつくり施策を行っていききたい」

質問 元総務大臣増田寛也氏を座長とする「日本創成会議」は今後30年間で、日本の自治体の半数で20代、30代の女性の数が半数以下に減るとの試算を発表した。

これにより自治体の運営が難しくなり、消滅する可能性があり、地域の崩壊の危機を指摘している。この中に小豆島町も入っており、26年後には人口は現在の半分の8千人代となり、20代、30代の女性は65%減の450人になると推計している。町としてこの問題にどう取り組むのか。

答弁 この発表に大変ショックを受けたが、逆にこの流れに負けてはならないとファイトがわいた。現在の島の人口減少傾向は、急速で急激になっている。

若い女性にとって自然とアートを生かした島づくりをして日本中で一番の子育ての環境にしたい。未来ビジョンをつくり施策を実行していく。

基本は小豆島で生まれ育った若者がUターンして島へ帰り、家庭をもち子どもの数が増えねばならない。それには、小豆島はすばらしく価値が高く、幼い頃から「郷土愛」を十分に身につけておくこと。勉学のため島を離れて身につけた能力を生かせる職場をつくれるかどうかにかかっている。



成人式を迎えた若者

内海病院の健全化のその後は

町「病院内においても経営改善ワーキンググループを立ち上げ取り組んでいる」



大川 新也 議員

で現状の給与体系を継続するのか、また経営改善策の効果は。

答弁 昨年2月に経営改革チームを立ち上げ取り組んだ結果、前年度より2億円近い改善がなされた。医師の本俸や定額手当はそのままで、時間外手当等は、自主返納され一応の成果はあった。

現在、県内トップの内海病院は常勤医師16名、平均年齢42・9歳、平均給与月額169万円が現状である。

しかし、当院は島しょ部であり、ある程度の給与水準を保障しないと医師が来ないため、引き続き医師確保を優先に考えていきたい。



経営改善が進む内海病院

大型ごみ有料化

への現状は

町「有料化に向けた新制度については、設計段階であり、早期に実施案を作成する」



質問 「大型ごみ無料回収終了となる」と今年配布されたチラシに掲載され、例年にならない大量のごみが集積されたが、有料化の話は議会で承認されておらず、「有料化」だけが先走りしていると思えるが、現状は。

答弁 有料化の構想は議会で伝えたが決定はしていない。説明不足で反省したい。今後、早期に実施案を作成し、議会に説明したいと考えている。

質問 高潮などの際に、安田から苗羽にかけて通行可能な迂回路がなく大変困ったことがあった。また、オリイブマラソン大会においても同様。苗羽から安田を結ぶバイパスが必要ではないか。

苗羽から馬木・安田を繋ぐ 新たな連絡道路の構想は 町「中長期的な検討課題としたい」



中松 和彦 議員

答弁 災害対策や様々なイベントにとって非常に効果的だが、該当する制度の有無、あるいは財源などの問題から、中長期的な検討課題としたい。

内海湾にかつての 豊かさを

町「関係機関と連携し、研究や対策を現在検討している」

質問 内海湾では、魚介類が激減し貝堀りや魚つりなど島国としてのイメージが失われつつある。有効な対策をお願いしたい。

答弁 解決方法が見つからないのが現状で、漁業組合、香川大学、瀬戸内環境保全協会などと連携し研究や対策を現在行っている。



内海保育所、苗羽幼稚園の施設新設について

町「両施設を認定こども園として統合する」

質問 内海保育所、苗羽幼稚園両施設新設に際する基本的な方向性は。

答弁 両施設を「認定こども園」として統合することを目指し、今後、就学前教育検討委員会、議会の意見を参考に具体的に進めてゆきたい。



統合を目指す「内海保育所」



安井 信之 議員

質問 高校再編と病院統合に伴うインフラ整備はどうなっているのか。

答弁 高校再編、病院統合は、島の将来を左右する施設整備になる。これに伴う交通安全対策あるいは建築用地周辺の整備も同様に、島の将来を左右する重要な課題である。

高校再編に伴う国道436号線の交通安全施設整備は、平成29年4月開校時に完了することを目標に、取り組んでいる。

高校用地周辺の排水計画と道路整備については近く公文書を持って県知事宛に要請をする。小豆島中央病院の周辺整備は現計画だけではなくて駐車場用地

再編整備に伴うインフラ整備について

町「県に要請するとともに地元要望にこたえてまいりたい」

あるいは進入路などについて、さらに必要があると考えている。



拡幅工事が進む
国道 436 号

奨学金制度のこれからについて

町「未来を担う子どもたちのために、制度の見直しを行いたい」

質問 より受けやすい制度へ変えていく必要があるのでは。

答弁 教育委員会所管の小豆島町奨学資金の目的は、修学の機会を確保と、本町の振興と発展に必要な人材の育成である。

福祉関係所管の保健医療福祉修学資金は、保健医療福祉関係職員の確保を図ることを目的にしている。返還免除要件について



森 崇 議員

BGグラウンドの改善が必要

町「昨年度、野球グラウンドを含む公園施設の健全度調査を実施、長寿命計画を策定している」



ホームベース近くの凹を計る関係者

質問 本塁のベースがピッチャーマウンドのように盛り上がり、球児がすべり込んだ時危険だが対策は。防風林対策について町の方針は。

答弁 平成21年度に約100トンの黒土を補給し工事を行っている。同様の工事を考え、土

には「にがり」をまぜて粘性を増やす。防風林は事情があり考えていない。

副町長二人制度を生かし地域に入るべき

町「地域からの要請に応じて、

地域に密着した行政を目指したい」

質問 人口減少、少子高齢化、耕作放棄、特に「学校、病院、公共交通」問題は必死な取り組みが必要です。「しんどい運動」が全体化し行政の方針に繋がる。

答弁 海の復権をテーマに瀬戸内芸術祭、地域の活性化に取り組みが地域密着を目指し副町長二人制は要請があれば地域に入り生かしたい。

質問 航路の安定は必須条件だ。草壁港の高潮対策が進んでいる。ここからの潮が三軒屋まで流れ

町「満水後、水位を下げ、ダム本体に影響がないかを調査します」

内海ダムの試験湛水は

質問 内海ダムの貯水槽で、メダカの群れを見て安心した。災害時の苦労話は尽きない。

再度の本発行計画の進捗状況と試験湛水の実情を知りたいが。

質問 内海ダムの貯水槽で、メダカの群れを見て安心した。災害時の苦労話は尽きない。

試験湛水ですが6月末までの雨量に期待し、降らなければ来年となる。

質問 内海ダムの貯水槽で、メダカの群れを見て安心した。災害時の苦労話は尽きない。

試験湛水ですが6月末までの雨量に期待し、降らなければ来年となる。



鍋谷真由美 議員

町長の政治姿勢を質す

町「憲法解釈について、発言は控えさせていただく」

質問 国民の命と生活を破壊する安倍政権の暴走、特に①憲法破壊の集団的自衛権の行使

答弁 少し時間をかけて検討し、持続可能な交通体系について、平成26年度中に方向性を固める。乗り継ぎ運賃割引は考えていない。吉田、福田地区への補助などは現段階では必要性はない。

容認②原発再稼働③医療・介護総合法案の強行採決に対する町長の見解は。

答弁 見解を申し上げることは差し控えた

お年寄りのバス代

半額バス実施を

町「現段階で必要性はない」

質問 お年寄りの半額バスの早急な実施を。また、乗り継ぎ運賃の割引、福田、吉田地区



オリーブバス

内海病院の医師確保は

町「複雑な経緯の中、大変厳しい状況」

質問 内海病院の医師の現状と今後の見通しは。

住民へのバス代への補助または、無料病院バスが必要では。

答弁 内海病院での医師の確保は大変厳しい状況にあり、複雑な経緯の中で、限られた分野の医師を確保するには非常に難しい病院になっている。

認知症による行方不明ゼロの町をめざして

町「地域の定期的な見守り活動をお願いしている」

質問 大牟田などの先進的な取り組みに学び、徘徊対策の取り組みを進め、GPS機器助成制度の実施を。予防のために脳の健康教室などを実施しては。

答弁 オリーブ健康塾などで認知症理解の促進、リーダーの育成、高齢者の活動拠点の整備、老人クラブ等の団体に地域の定期的な見守り活動をお願いしている。GPSは検討課題にしたい。



松下 智 議員

質問 新病院建築後の運営面・経営面での懸念される材料は何か？さらに、懸念される事項への考え方・見通しはどうか？

新病院に対する経営・運用面などの懸念される材料は

町「医師の確保が最大の課題・島民の新病院への利用が重要」

答弁 新病院の不安材料は医師の確保が最大の課題であり、この問題の解決には人生の経験のすべてを投げ打つてでも頑張りたい。

もう一つ、最大の不安は新病院を守るために町民（島民）が利用することであり利用がなければ赤字がかさむ。

このためには交通体系の整備等を利用者負担のあり方などを考慮して提案したい。

低地帯の内排水（雨水）施設の整備促進は

町「必要性はあり、計画的な整備を考慮する」

質問 高潮対策としての防潮堤工事と水門設置工事は順調に展開されているが、並行して整備されるべき雨水の排水施設の整備が遅れていると感じる。町内全域に見て水門のない低地帯対策としての必要性はないか。離島振

興法によるメリットは。

答弁 低地帯の雨水対策と津波・高潮対策とは、補助制度上は別の対策として位置付けられている。

規模の大きい水門のある河川等は、規模に応じて簡易な排水ポンプを設置している。水門の無い・規模の小さい箇所においても、防災・減災対策から必要性はあり、今後、町の財政的な負担をも考慮しながら計画的な整備を図りたい。

離島振興法の指定による嵩上げ補助はない。



小豆島中央病院の完成予想図

平成20年の全国学力テスト 日本一から「まなぶ」

町「地域がもつ多様な教育力を生かしていく」

質問 町ぐるみで子育てをしようという雰囲気、学力を育てる土壌となつていくという秋田県の例もある。我が町の真の発展は何か。学校教育と地域社会との関係をどう考え、今後どのような連携を進めていこうと考

え、今後どのような連携を進めていこうと考

南海トラフ地震と津波について

町「ハザードマップを全戸配布し、啓発を行い、意識を高めたい」

質問 防災対策への住民の意識を高める策は。



坂口 直人 議員

答弁 海拔表示に関して啓発に努め、設置箇所を増やし、海拔の感覚をもってもらえるよう努めたい。自分の住んでいる地域がどんな被害となるかが示されているハザードマップを全戸配布し、啓発を行い、意識を高めたい。



地域の防災意識を高める

貫した教育の実践を目標として、学力向上、運動能力向上、道徳心の育成に取り組んでいる。外国語活動支援員の配置、寺子屋教室の実施、また地域住民との交流による授業や行事等がある。

「持続可能な 豊かな地域 づくりとは？」



畑 口 欣 哉
(西村自治会連合会 会長)

西村は、内海地域の西の端に位置し、面積約4.6km²、520世帯、人口1,100名が暮らす地区です。西から竹生、西条、中条、流、原、日方、清水の7つの独立した自治会で構成され、それぞれ歴史のある地域活動を行っています。



幸せのハート型オリーブの葉

西村の特徴は、地区外、島外から移り住んで来た人が多いということです。オリーブ栽培発祥の地であり、オリーブ色と銀白色のオリーブの葉

が風に揺れ、陽光きらめく内海湾とその向こうに田浦半島を望む最も小豆島らしい景観が多くの人を惹きつける魅力です。

西村全体の行事として自慢できるのは、8月15日盆踊り大会の後、御詠歌に送られながら精霊船が一行になって内海湾に旅立っていく精霊流しと、1月に公民館グラウンドで行われる、子ども会主催の巨大なとんど焼きです。こういう行事を続けていく中で、西村で生まれ育った人と移り住んで来た人、高齢者と若い子育て世代がつながり、新しい郷土愛を育んでいくこと。これが持続可能な豊かな地域づくりの鍵かなと思います。



とんど焼き (西村地区)

子ども達の頑張り、ス
タッフの指導のおかげで、
5月の郡大会では優勝こそ
逃しましたが準優勝という
成績をおさめる事ができま
した。

少子化で野球人口も減り
チーム数も減っていく中、
援、よろしくお願いしま
す。

「全力・集中・全員野球」
をモットーに練習に取り組
み、各大会に挑んでいます。
先輩方から受け継いできた
安田ヤンキースで、勝つ喜
び、負ける悔しさ、チーム
の大切さを覚えながら日々
成長し、中学・高校につな
げてほしいと願っています。

の団員と監督、
コーチ2名が所属
するチームです。
挨拶、礼儀、出
来る事をしっかり
やり、出来なかつ
たことを一つでも
出来るようになる。そして

は、
安田ヤンキース
1年生1名
2年生2名
3年生8名
4年生2名
5年生2名
6年生6名
合計21名



編集後記

4月の町議改選で
議員は激しい選挙戦
の末、新体制が決定
した。しかし、今回
の投票率は前回に比
べ激戦と言われなが
ら下回った。この事
実を我々議員が重く
受け止め、住民がよ
り一層関心の持てる
魅力ある議会をめざ
して行かなければな
らない。

広報委員も新人3
名が入り新しいス
タートをした。前回
と一変して男世帯の
構成になったが、議
会の情報をいかに分
かり易く、また審議
内容を伝えるかが大
切になっている。

今後、住民の皆様
から、より親しまれ
る「議会だより」を
めざしますので、ご
期待ください。

《広報編集特別委員会》
委員長 大川 新也
副委員長 森 崇
委員 谷 康男
松 下 智
中 松 和彦
坂 口 直人

本紙に対する
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL (0879) 75-1100 FAX (0879) 75-0108
E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp

議会だより 平成26年8月1日 8